

地域のフードバンク活動情報交換会を開催報告・・みんなで力を出せば・・

2019年3月12日 12:30～15:30 金沢区富岡の並木地域ケアプラザ

フードバンクかながわが食品を提供する地域のフードバンク9団体のうち、7団体（フードバンクかわさき・ワンエイド・お福分けの会・フードバンク横浜・神奈川フードバンクプラス・フードコミュニティ・フードバンク小田原準備会）が集い、フードバンク活動の情報交換会を行いました。



少しずつみんなの力を出し合う

「フードバンクふじのくに」の鈴木和樹事務局次長

情報交換会では、まず、行政・社協との関係構築について、「フードバンクふじのくに」の鈴木和樹事務局次長の講演がありました。鈴木さんは、食支援活動で起こってしまう支援対象者の偏りや、若い層への周知など、食支援の課題を指摘。静岡での実践例から、「行政・専門職・社協・地域ボランティアなど、それぞれにできることは限界がある。しかしみんなで少しずつ力を出し合えば可能性が広がる。支援対象者の偏り、寄贈食品の偏りを県域で情報共有することで解決に結びつくのではないか」と、行政の各部の壁



を越えた会議事例や、NPOと行政との協同事業などの実践例を交えた問題提起と報告があり、今回のような県内のフードバンク関係者の情報交換会についてエールがありました。

福祉とつなぐことで、食品ロス削減も進む

横浜市資源循環局3R推進課今井輝子係長

また横浜市資源循環局からは3R推進課の今井輝子係長が食品ロス削減の取り組みとして、「福祉



とつながる」フードドライブの取り組みを上げました。家庭の在庫と期限の習慣づけと、フードドライブが福祉とつながることが食品ロス削減の意識づけになると話されました。

フードバンクかながわからは、藤田事務局長から<初年度の活動進捗>と、土山事務局次長から<行政社協との連携状況>を報告しました。

地域フードバンクの課題を共同で解決する

地域のフードバンクからは、食品管理システム、持続的な団体運営、食品利用希望者への対応など、現場で日々向き合っている課題について意見交換を行いました。県域で食品をコーディネートできる可能性のあるフードバンクかながわへの期待として、情報連絡会の開催、原発事故により福島から県内への避難者への支援協力、食品管理システム講習会（フードバンクかわさき・高橋実生さんによる）などの要請がありました。

参加者は、フードバンクかわさき・ワンエイド・お福分けの会・フードバンク横浜・神奈川フードバンクプラス・フードコミュニティ・フードバンク小田原準備会

講師として、フードバンクふじのくに、横浜市資源環境局

フードバンクかながわからは、理事、事務局のほかに、構成団体の労福協、ユーコープ、全労災、JA からの参加がありました。